

第4章

住み慣れた地域で
暮らし続ける
ために

第4章 住み慣れた地域で暮らし続けるために

1 地域包括ケアシステムの実現に向けて

(1) 基本理念

広域連合では、第6期・第7期において進めてきました「地域包括ケアシステムの構築・深化」の方向性を引継ぎ、目指すべき高齢社会の姿を現すものとして、次の基本理念を掲げます。

基本理念

住み慣れた地域で 暮らし続けるために

基本目標

基本目標1 健康づくりと介護予防の推進

基本目標2 地域で支え合う仕組みづくり

基本目標3 自立に向けた介護サービスの安定提供

これは、全ての人が、住み慣れた地域の中で、暖かい心配りを受けて心豊かに暮らしながら、互いに人生の中で培った経験を発揮し、地域全体の力となっている社会を表しています。地域に住む人が「支える側」と「支えられる側」という画一的な関係ではなく、お互いに支え合う社会です。

団塊の世代が75歳以上を迎える令和7年(2025年)に向けて、住まい・医療・介護予防・生活支援が、多職種の連携と住民同士の支え合いにより包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を推進していくことが求められています。誰もが地域の課題を「我が事」としてとらえ、多様化、複合化する課題に「丸ごと」対応できる包括的な支援体制の確立を目指します。また、この基本理念を実現するため、各基本目標に取組や指標を設定し、進捗管理を行います。

(2) 推進体制

地域包括ケアの推進には、構成する3市1町との連携、各市町が定める高齢福祉計画との一体的な運用が重要です。広域連合では、スケールメリットを活かして介護保険制度を運用し、関係市町と連携・調整し、地域の共通課題の解決を図り、円滑な介護保険事業の運用を目指します。

関係市町は地域課題の把握、高齢福祉施策と介護保険事業を連携しながら、各市町で実施する事業を進め、高齢者が安心して暮らすことができる地域づくりを目指します。



2 基本目標1 健康づくりと介護予防の推進

高齢者が要介護状態となることの予防や要介護状態の軽減・悪化の防止を図るには、「心身機能」、「活動」、「参加」のそれぞれの要素にバランス良く働きかけることが重要です。そのためには、単に機能回復訓練等のアプローチだけでなく、生活機能全体を向上させ、活動的で生きがいをもって暮らせるよう、生活環境の改善や地域づくりを含めて取り組む必要があります。

高齢者の心身の状態は自立、フレイル、要支援、要介護と連続し、また状態が変わるものであることから、どの段階においても適切な予防や要介護状態の軽減、悪化の防止が適切に図られるよう、関係機関と協力して、総合的な健康づくり、介護予防を推進します。

図表 4-2 ■自立支援・介護予防・重度化防止の取組み

